平成28年度　大田区立大森本町高齢者在宅サービスセンター
事業報告・決算概要

1　事業運営

(1)利用定員　通所介護　　1日40名
　　認知症型　　1日12名
　　介護予防　　1回10名(年3回　3ヶ月1クール)

(2)提供時間　9：30～17：30

(3)営 業 日　日曜日を除く毎日（12月31日～1月3日は休業)

(4)送迎体制　マイクロバス　1台　　ハイエース　2台

2　事故及びヒヤリハット

内　　容	件数	内　　容　・　対　　応
爪きり	1	左小指を深爪による出血　　家族、利用者に謝罪
送迎エラー	1	確認ミスにより迎えに行かなかった　家族へ謝罪
転倒・尻餅	1	お風呂場で転倒　　家族へ報告の上謝罪
所在不明	3	無断外出　　家族へ報告の上謝罪
移乗時	2	車椅子に移乗する際体が反り返った　家族へ報告の上謝罪
その他	1	指を物に挟んでしまった　　家族へ報告のうえ謝罪
ヒアリハット	150	毎月、センター会議内のリスクマネジメントにて確認、分析の実施 内訳としては、①入浴関連23件、②移動関連21件、③送迎関連

※　事故の対応については、起こした都度センターとして、防止策を検討している。

3 事業推進の課題

(1) 効率的な事業展開と安定した財政基盤

課題	結果・評価
①業務体制の効率化 [評価:A]	結　果 ・会議、委員会の議題などをあらかじめ周知し、終了時間を定め効率的に行った。 ・利用者へ安心と質の高いサービスを図るため、ＩＴによる業務の効率化、省力化、共有化を図った。 評　価 ・委員会や全体会議の事前の調整を行うことで効率的に実施が出来た。 ・パソコンに必要な情報を整理し、共有化が図れた。
②収益の向上 [評価:B]	結　果 ・収益増に繋がるPRを行い、質の高いサービスが提供し続けられる財政基盤の確立に努めたが稼働率は前年を下回ってしまった。 ・固定費をはじめ変動費を項目ごとに整理し、月々の収支を検証しながら職員全体でコスト削減に努めた。その結果、事務費の削減につながった。 評　価 ・職員の質がサービスの質を決めるため、高い専門性と豊かな人間性を備えた人材育成並びにコスト削減についてに今後も引き続き取り組んでいく。
③計画的な施設整備他 [評価:A]	結　果 ・備品の購入や修繕については、計画的に実施した。 評　価 ・施設整備については、計画的に実施したが、施設が老朽化のため、突然の施設整備も多くなっている、今後も計画的に実施していく。

(2) 良質なサービスの向上

①サービスの質の向上 [評価:A]	結果 ・サービス内容について、職員会議で、アンケート調査を定期的に分析を実施した。 ・改善結果を検証し、マニュアルの改訂等サービスの向上に努めた。 ・適切なケアプランのプランニングのため全人的な視点から実施した。 評　価 ・利用者の多様なニーズに応えられるよう、人員の配置等を再検討し、質の高いサービスが提供できるよう努めた。

②安全・安心なサービス提供 [評価:A]	結果 ・危機管理職員を中心に、危機管理マニュアルによる内部研修を年２回実施した。 ・利用者の人権・権利を守り地域・家庭においても侵害されないよう視野の広い支援に努めた。 評　価 ・多様なニーズに応えるサービス、時代を先んじるサービスへの向上及び努力を図り、各職員が研修を通し的確に対応できる知識と専門性の向上に取り組んでいき、今後も質の高いサービスを提供する。
③サービス体制の再編及び確立 [評価:B]	結果 ・サービス提供にあたり、自立支援を目指したサービス提供を目指した。 ・重度化、認知症対応への取組みとして、個々の要介護度の変化に対応する工夫を図った。 ・四季折々、様々な行事等を通じて、新たな能力の発見に努め生きがいのある生活ができるよう援助に努めた。 評　価 ・自立支援を目指したサービスを提供するとともに、理解力の低下やＡＤＬの低下がみられる利用者が多くなったため、それぞれに合わせた活動の検討も引き続き行っていく。
④地域交流事業 [評価:B]	結果 ・老人ホームともに、地域に開かれた施設として、ボランティアの活用、地域の高齢者が参加できるサービスの提供。 ・住み慣れた地域で健康で安心して生活ができるよう、平時に止まらず、災害時において、地域の避難所となるよう取り組んだ。 評　価 ・老人ホームと共に地域事業へ参加しているが、今後は、更なる地域との交流が図れるよう、近隣の小学校、保育園及びボランティア等の受け入れを積極的に行っていけるよう努める。

評価基準　　A:目標の80%以上の成果をあげた。
B:目標の50～80%の成果しかあげられなかった。
C:目標の50%以下ないし実施しなかった。

4 安全管理、防災対策

(1) 感染症・食中毒対策

ア 看護師を中心とした、感染症対策委員会を必要の都度実施した。

(2) 事故防止対策

ア 危険箇所がないか専門的知識を持つ委託業者と共に年2回点検作業を行なった。

イ 事故発生時に全ての職員が体外式除細動器（AED）の操作ができるよう訓練を年1回実施した。

(3) 災害対策

ア 年２回、防災訓練を実施した。（内１回は、大森複合施設総合訓練）

イ 火災以外に震災時訓練の実施し、震災時マニュアルの見直しを行った。

ウ 緊急連絡網における連絡訓練を実施した。

(4) 労働安全衛生

ア 労働安全衛生について推進委員と共に取り組んだ。業務上の事故などは生じなかった。

28年度　大森本町高齢者在宅サービスセンター拠点区分決算概要

(1)事業活動計算書(概要)

拠点総計		本年度決算	前年度決算	差し引き
サービス活動収益　計		105,297	110,955	▲ 5,658
	介護保険事業収益	103,147	107,792	▲ 4,645
	その他	2,150	3,163	▲ 1,013
サービス活動費用　計		113,234	112,804	430
	人件費支出	72,608	69,509	3,099
	事業費支出	14,623	15,628	▲ 1,005
	事務費支出	26,003	27,667	▲ 1,664
	利用者負担軽減費	0	0	0
	減価償却費	0	0	0
	国庫補助金等特別積立金取崩額	0	0	0
	その他費用	0	0	0
サービス活動増減差額		▲ 7,937	▲ 1,849	▲ 6,088
サービス活動外収益　計		98	1,388	▲ 1,290
サービス活動外費用　計		170	179	▲ 9
サービス活動外増減差額		▲ 72	1,209	▲ 1,281
経常増減差額		▲ 8,009	▲ 640	▲ 7,369
特別収益　計		0	0	0
	拠点区分間繰入金収益	0	0	0
	サービス区分間	0	0	0
	その他	0	0	0
特別費用　計		356	1,500	▲ 1,144
	拠点区分間繰入金費用	0	1,500	▲ 1,500
	サービス区分間	0	0	0
	その他	356	0	356
特別増減差額		▲ 356	▲ 1,500	1,144
当期活動増減差額		▲ 8,365	▲ 2,140	▲ 6,225
前期繰越活動増減差額		74,440	74,424	16
当期末繰越活動増減差額		66,075	72,284	▲ 6,209
その他の積立金取り崩額		487	2,156	▲ 1,669
その他の積立金積立額		0	0	0
次期繰越活動増減差額		66,562	74,440	▲ 7,878
	人件費率	69.0%	62.6%	

次期繰越活動増減差額
　年間サービス活動費用の約　　7.1　カ月分

貸借対照表　(内訳)

	当年度	前年度	増減
流動資産	77,795	83,288	▲ 5,493
現金預金	60,785	65,252	▲ 4,467
事業未収金他	17,010	18,036	▲ 1,026
固定資産	3,538	3,950	▲ 412
車両・器具備品	0	0	0
退職給付引当資産	1,092	1,017	75
その他積立資産	2,446	2,933	▲ 487
資産の部合計	81,333	87,238	▲ 5,905
流動負債	11,233	8,848	2,385
事業未払金	6,921	8,119	▲ 1,198
職員預り金他	759	729	30
賞与引当金	3,553	0	3,553
固定負債	1,092	1,017	75
退職給付引当金	1,092	1,017	75
その他	0	0	0
負債の部合計	12,325	9,865	2,460
その他の積立金	2,446	2,933	▲ 487
次期繰越活動増減差額	66,563	74,440	▲ 7,877
(うち当期活動増減差額)	▲ 8,365	▲ 2,140	▲ 6,225
純資産の部合計	69,008	77,373	▲ 8,365

28年度末積立金残高　(退職給付引当資産を除く)

サービス向上経費積立金	2,360
緊急設備整備費積立金	86

＊　当期より、職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込み額のうち当期に帰属する額を賞与引当金として3,553千円計上している。